

		自己評価		学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題と今後の改善方策
1 進路指導の充実 [進学課] [就職課]	I) 望ましい進路観・勤労観の育成を図るとともに、明確な進路目標を設定させる。 II) 進路指導に必要な情報を迅速に収集し、計画的・組織的な進路指導を行う。 III) 個々の生徒に適した進路を開拓するとともに、自己実現を目指すキャリア教育を推進する。	評価指標 I) ・国公立大学合格者30名以上。 ・本校に進学させて良かったと思っている保護者の割合90%以上。 ・進路ガイダンスや進路講演会などの行事が進路意識の高揚につながっていると思う保護者の割合70%以上。 II) ・三者面談や学年別PTA等は十分に行われていると思う保護者の割合80%以上。 III) ・インターンシップ・校外体験学習の参加者が50名以上。	評価指標の達成度 I) ・国公立大学(9名) 私立大学(127名) 私立短期大学(16名) 専門学校(51名)の合格者があった。(1/13現在)同志社大学,立命館大学等の難関私立大学,短期大学への進学者の増加,看護医療系方面への進学者も増加した。 ・就職者は,22名(内3名は公務員) ・本校に進学させて良かったと思う保護者の割合は86.6%。 ・進路ガイダンスや進路講演会などの行事が進路意識の高揚につながっていると思う保護者の割合は71.6%。 II) ・三者面談や学年別PTA等は十分に行われていると思う保護者の割合は77.7%。 III) ・インターンシップ,校外体験学習の参加者は52名。	(評定) B (所見) 保護者との連携を密にし,個人面談・進路志望調査を通して,生徒の進路志望を把握した。 コロナ禍においても補習や英語検定,漢字検定,数学検定,全員受験の模試には十分な取組はできたが,進学への意欲喚起や希望者受験の模試受験者を増やすため,将来の具体的なビジョンを持たせる指導強化が必要である。	次年度への課題と今後の改善方策 国公立大学や難関私立大学を目指し様々な取組を展開していく必要がある。特に大学入試共通テスト,さらに新学習指導要領に向けた進路指導體制の構築が急務である。 総合型・学校推薦型,各推薦入試への対応を進めるとともに,最後まで粘れる生徒を作っていく必要がある。そのためにも,さらなる生徒の意識改革が重要である。一人でも多くの補習参加者が得られるように努めていかなければならない。 コロナ禍で保護者との面談機会や自身の充実が難しい面があった。進路相談も担任中心だけでなく,各ポジションで教員が連携し,より良い進路指導に繋げる必要がある。
		活動計画 I) ・夏季休業中に三者面談を実施する。 ・補習を充実させる。 ・1・2年次生に対して,校外模試を年5回以上実施する。 ・大学入学共通テストに向けた実践トレーニングを行う。 ・資格取得を奨励する。 ・生徒が主体的に進学先を研究する姿勢を身につけさせる。 ・進路ガイダンスを実施する。地元大学,専門学校との連携を強化する。 II) ・年次別PTAを実施する。 ・個人面談を充実させる。 III) ・公務員希望生徒対象の説明会を本校で開催実施する。(自衛隊・県警・地方公共団体) ・インターンシップ・校外体験学習の参加を促す。	活動計画の実施状況 I) ・各学年で三者面談並びに適宜個人面談を実施した。 ・1年を通して放課後補習(45分)を実施した。また,夏期・冬期・春期及び2次対策補習等を実施した。(補習出席率は1年次81.5%,2年次79.6%,3年次72.9%) ・1・2年次生の校外模試を年間6回実施。部活動で当日受験できない者に対して,別日程で受験できるように配慮した。 ・冬季休業中に「鳴高プレテスト」を3回実施した。 ・英語検定,漢字検定,数学検定の受験を奨励。英検138名,漢検81名,数検7名が受験した。1月現在で英検61名,漢検25名,数検3名が合格。(最終合否は3月中旬) ・2年生は,学部別ガイダンス25講座開催。 ・3年生は,学部別ガイダンス20講座開催。 II) ・年次別PTAを各年次とも2回実施した。 ・面接週間を利用して面接を実施した。 III) ・公務員説明会,インターンシップは新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが,各種体験授業や意見交換会に積極的に参加できた。		
2 学習指導の改善 [教務課] [情報課]	I) 教職員の指導スキルの向上に努め,「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。 II) 生徒の学習意欲を喚起する指導方法・指導體制の工夫・改善を図る。 III) 徳島県GIGAスクール構想により整備された生徒1人1台端末を積極的に活用し,多様な生徒に個別最適化された学びの実現を目指す。	評価指標 I) 先生の説明がわかりやすいと思う生徒の割合90%以上。 II) ・単位制による多くの科目選択や少人数授業等が充実していると思う保護者の割合80%以上。 ・家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的にしていると思う保護者の割合70%以上。 III) ・電子黒板や生徒1人1台端末等のICTを活用した授業が展開され,学習の理解に役立っていると思う生徒の割合80%以上。	評価指標の達成度 I) ・先生の説明がわかりやすいと思う生徒の「そう思う」「ややそう思う」の割合91.0%。 II) ・単位制による多くの科目選択や少人数授業等が充実していると思う保護者の「そう思う」「ややそう思う」の割合84.6%。 ・家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的にしていると思う保護者の「そう思う」「ややそう思う」の割合56.0%。 III) ・電子黒板や生徒用学習端末等のICTを活用した授業が展開され,学習の理解に役立っていると思う生徒の割合76.9%。	(評定) B (所見) 研究授業及び公開授業等を実施し,授業実践を見学し協議した。 電子黒板や生徒用学習端末を活用した授業の実施が多く見られ,教員による相互参観授業も実施できた。 年間を通した補習,個別指導,週末課題等を継続的に実施し,基礎学力の定着に向けた取組が図られた。 家庭での学習時間の確保に向けた対策を図っていきたい。	次年度への課題と今後の改善方策 単位認定・進級等において,中学校とは異なることを集会や文書配布等の方法により,徹底する必要がある。家庭学習時間については,週末課題の取組の内容や工夫が今後の課題である。また進学や就職試験で適用する「学力」の向上を図る手立てや内容の精選が必要である。 授業内容を深めるICTの活用について,教員の技術力の向上を図る。電子黒板の活用に加え,「徳島県GIGAスクール構想」による一人一台端末のより一層の効果的な活用の定着を進めることが必要である。

		<p>活動計画</p> <p>I) ・教員相互の参観授業を年2回実施する。 ・教科会・年次会で学力向上に向けて検討する。 ・高大連携事業を行う。</p> <p>II) ・多様な学校設定科目を設ける。 ・課題学習の習慣化を図る。</p> <p>III) ・共通アプリケーション、授業及び学習方法、危険管理対策、端末の運用管理等について職員研修を実施し、全教員が生徒1人1台端末を活用した授業を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・相互参観授業を年2回実施した。 ・教科会・年次会で学力向上に向けて検討する機会をあまり確保できなかった。 ・鳴門教育大学の原教授による出前講座を実施した。また院生による「Miraiサポート」も継続して実施できた。</p> <p>II) ・ユニバーサルデザイン、チャンピオンスポーツ、ふるさと研究、伝統文化などの多様な学校設定科目を設け、生徒の適性、進路希望や興味・関心に応じて幅広く科目選択をすることができるようにした。</p> <p>III) ・総合教育センターのオンラインによる教職員研修を実施し、Microsoft Teams の活用方法を研修した。 ・ICTを活用した研究授業を年10回実施した。</p>		<p>学校関係者の意見</p> <p>「先生の説明が分かりやすい」と思う生徒が90%を超えており、昨年度よりさらに向上している。保護者の視点からは生徒の家庭学習の計画性についての評価は低いものの、「単位制による多くの科目選択や少人数授業が充実している。」と考える保護者が約85%にもなり、大いに評価されている。</p> <p>生徒には、学ぶ習慣を是非身につけてもらいたい。そのためには、生徒への意識付けが必要である。しっかりと時間をかけた学習活動の目標やビジョンの指導が必要である。</p>
<p>3 生徒指導の充実</p> <p>〔生徒指導課〕 〔教育相談課〕</p>	<p>I) 生徒一人一人との関わりを大切に丁寧な指導を通して、教師と生徒の信頼ある関係を構築する。</p> <p>II) 家庭、中学校、関係諸機関との連携を密にすることで、問題行動を未然に防止する。</p> <p>III) 教育相談活動を充実させることで、いじめの未然防止・早期発見に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・校則や決まりを守っていると思う生徒の割合90%以上。 ・校則違反等の特別指導対象生徒5名以下。 ・自転車事故10件以下。</p> <p>II) ・鳴門高校生は、校則やきまりを守っていると思う保護者の割合75%以上。 ・学校から配布される書類等が、保護者の手に届く割合80%以上。</p> <p>III) ・教員対象に生徒の学校生活に関するチェックリストを年2回実施。 ・スクールカウンセラーの活用促進。 ・悩み事が相談できる人がいる生徒の割合85%以上。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・校則や決まりを守っていると思う生徒の割合は86.6% (昨年度85%)。 ・特別指導件数は4件、4名、(昨年度2件、3名)。 ・自転車事故は19件 (昨年度13件)、交通マナーに関する苦情は11件 (昨年度17件)。</p> <p>II) ・鳴門高校生は、校則やきまりを守っていると思う保護者の割合は71.2% (昨年度65.5%)。 ・学校から配布される書類等が保護者の手に届く割合は74.9% (昨年度74.3%)。</p> <p>III) ・教員対象に支援の必要な生徒の学校生活に関するチェックリストを年2回実施し、スクールカウンセラーへの相談の呼びかけや、生徒の支援に役立った。 ・悩み事が相談できる人がいる生徒の割合は、全学年とも85%以上であった。 (1年86.8%、2年88.2%、3年87.9%)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>多くの生徒は校則を遵守し学校生活を送っている。また、生徒生活意識調査のアンケートで毎日あいさつをする生徒が72.6%と向上した。(令和2年度62.9%)</p> <p>服装指導については、マナーズウィークを活用し、月ごとのテーマを設定し全教職員で粘り強く取り組み、一定の成果を挙げている。</p> <p>SNSについては、意識調査のアンケートの中で、利用時間が増えているなどの課題がある。講演会等を実施し、スマートフォンの使用方法についての指導を継続する必要がある。</p> <p>教育相談に関しては、多欠席調査やチェックリストを活用し、支援の必要な生徒の状況を把握し、スクールカウンセラーへの相談につなげることができた。また、年次会での支援生徒への対応策の提示や教員研修等での適切な対応・支援策の提案により、教員の共通理解が図られたことで相談支援体制の充実につながった。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>校則やきまりを守る意識が向上し、あいさつを進んでする生徒が増えるなど、今後も継続した指導に取り組んでいきたい。また、「身だしなみ指導」については、生徒・保護者・学校が情報を共有し、連絡を密にすることが重要であり、マナー等の面を含めさらに連携を深めていく必要がある。</p> <p>全ての場面を利用し、交通安全の再認識を図る必要がある。また、朝の登校指導も引き続き行っていきたい。</p> <p>スマートフォンによるトラブルについては少なくなったが、使用の際の危険性や利用の仕方等について、引き続き講演等を活用し指導の徹底を図りたい。</p> <p>教育相談に関しては、今後も各種調査等を活用して支援の必要な生徒の早期発見に努め、相談支援の流れをスムーズにしていきたい。その上で、不登校を経験して入学してきた生徒については本人や保護者との面談を通して必要な支援を早期に開始し、高校での不登校状態が減少するよう努めたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>I) ・生徒指導に関する共通理解を図る。 ・運転免許取得事前講習会5回・自転車マナー啓発運動等を実施する。 ・合格者説明会や入学式において、保護者に生活指導についての理解と協力を依頼する。</p> <p>II) ・毎月0のつく日に駐輪指導を実施する。学期に2回、立哨指導を行う。 ・集会や立哨指導で交通安全の啓発、指導を行う。 ・交通安全やSNS、公共マナー向上、命の大切さ等に関する講演会を行う。</p> <p>III) ・スクールカウンセラーや関係機関と連携し、不登校傾向のある生徒や特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援を行う。 ・教職員対象にチェックリストを年2回実施し、支援の必要な生徒の把握に努める。 ・教職員対象の研修を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・年度当初の職員会議において本年度の重点項目、指導の基準を説明し、指導についての共通理解を図った。また、3学期の職員会議で、生徒指導上についての中間報告を行い、今後の対策について検討した。 ・普通自動車運転免許取得事前講習会を年4回実施し、生徒・保護者に周知した。(3回までで84名の参加)</p> <p>II) ・学期に2回、学校周辺道路の危険箇所において、全副担任・年次付の先生方で立哨指導を行った。また、月に2回、駐輪指導を行った。 ・交通委員・部活動生を中心に挨拶・マナー啓発運動を実施。 ・5月にSNS講演会を実施。(全年次対象、講師：兵庫県情報セキュリティサポーターNIT情報技術推進ネットワーク代表取締役 篠原 嘉一氏)</p> <p>・7月に薬物乱用防止講演会を実施。(3年次対象、講師：鳴門警察署 生活安全課長 西原 龍彦氏)</p>		<p>学校関係者の意見</p> <p>「鳴門高校生は校則や決まりを守っている。」と思う保護者の割合が70%を超え、昨年度を上回っている。交通マナーに関する苦情も昨年度より減少しており、組織として交通マナーの指導や育成を実施していることが窺える。</p> <p>生徒が落ち着いており、正しい行動を理解しつつある。次年度は自転車のヘルメット着用についての取組をどうするか課題が残る。</p> <p>教育相談、特にヤングケアラー等の把握と対策が新たな課題であるが、スクールカウンセラーによる相談体制の構築に期待する。またSNSの普及についての課題は、講演会を実施するなど、取組の強化がよくできている。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・12月に交通安全講話を実施。(1年次対象, 講師: 鳴門警察署交通課課長 住友 貴志氏) ・携帯・スマホの預かり指導やNOスマホ・デーを実施した。 III) ・生徒の実態調査(チェックリスト)を行い, それをもとに不登校傾向のある生徒や支援の必要な生徒に対して, カウンセリングを勧め支援へつなげた。 ・今年度は, 別室登校を活用する生徒はいなかった。(1月段階) ・本年度も, 教職員研修に加え, 各年次会で支援の必要な生徒について, チェックリストをもとに状況や対応策等について共通理解を図った。 ・養護教諭が毎月実施する多欠席調査をもとに不登校傾向生徒の洗い出し, 担任の先生への声掛けなど早期対応に努めた。 ・保護者との面談を通して, 生徒への願いを確認し, 専門機関の情報を提供するなど家庭との連携に努めた。 		
<p>4 特別活動の充実 〔特別活動課〕</p>	<p>I) 部活動や生徒会活動を充実・活性化させ, 生徒の豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>II) ボランティア活動の推進に努め, 豊かな心と地域に貢献できる生徒の育成を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・部活動および学校行事に関する学校評価アンケートの充実度80%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部・文化部に対して壮行会を100%の割合で実施する。 ・全ての部活動において, 取組を学校ホームページで広報する。 <p>II) ・各種セミナーやボランティア学特講などの体験活動に関する学校評価アンケートの充実度80%以上を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・学校評価アンケート(保護者用)では, 部活動と生徒会活動が活発に行われているという割合が87.7%と昨年度(85.9%)を上回っていた。コロナの影響がある中で部活動運営が順調に行えたことも理由の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壮行会については, 体育館での実施はできなかったが, Zoomで実施(100%)することができた。 ・ホームページは, 各部ごとに効果的に更新し, 広報活動を行った。 <p>II) ・年間を通して計画的に運営を行い, ボランティア学特講は4回実施した。(昨年度も4回実施)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) コロナの影響がある中でも, 効果的に特別活動の取り組みを進めることができた。とくに壮行会ではZoom実施が定着し, 移動時間の短縮や発表内容の可視化等, 計画及び運営に配慮して実施できている。</p> <p>部活動においては, 昨年度より少し高い入部率87%(昨年度81%)であった。コロナ感染に留意して継続的に活動できたことで顕著な成績を残すことができた。</p> <p>行事運営においては, ほぼ予定通りに実施できた。次年度も計画・運営において十分留意し, 創意工夫のある行事運営を実践したい。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>部活動では, 文化部・運動部ともに入部率が高い。継続して活発な活動を進めていきたい。</p> <p>ボランティア活動についても, 積極的に取り組むための企画・運営を工夫したい。</p> <p>近年は, 生徒会活動の取り組みが減少している。コロナの影響が大きいが, このような状況でも生徒会活動が衰退しないよう, 各行事と生徒会活動の連携がとれるよう工夫していきたい。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>評価指標と活動計画がリンクして, 高い総合評価につながっている。部活動やボランティア活動は, 進路指導の充実にもつながり, 生徒の意識改革にも直結している。次年度は脱コロナ下での社会変化も生じることが予想されるが, 可能な限り従来の形で学校行事ができるよう取り組んで欲しい。</p>
<p>5 人権教育の推進 〔人権教育課〕</p>	<p>I) 全ての人の人権を尊重し, 多様性を認め, ともに支え合う仲間づくりを推進する。</p> <p>II) さまざまな人権問題の解決に向けて, 主体的に行動できる実践力を培う。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) この2年間はコロナ禍で中止となっていた板野支援学校との交流会の再開, 自主活動の育成・活性化を進め, 学校や地域での交流活動, ボランティア活動を推進する。</p> <p>II) 人権学習HR活動を, 各年次年間5回実施する。また, 教職員人権研修を年間2回は開催する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・2年間中止していた板野支援学校との交流会をオンラインで再開できた。多くの生徒(58名)が参加し, 画面を通じてではあるが, 心温まる交流をすることができた。また, 中学・高校生による人権交流事業および集会は毎回参加することができた。</p> <p>II) ・人権学習HR活動は各年次で年間5回を実施し, 教職員研修会も2回実施することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 交流会の実施は新しい形式で再開でき, 次年度への目標として継続することの重要性を確認できた。しかし, ボランティアなどの参加は減少したため, 活性化をする必要がある。</p> <p>人権学習HR活動では, 生徒が主体的に取り組む授業が実施された。地域性や時代に合わせた取組を継続したい。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>県指定研究2年目として, 本校の人権教育をさらに実践・推進できるように, 日頃から, 全教育活動で人権感覚を持った授業を展開できるようにしたい。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>県の指定を受け, コロナ禍であっても研究授業や公開授業など人権教育の取組を継続していることは大いに評価できる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>I) 板野支援学校との交流会や, ヒューマンネットワーク部の活動を通じて, 人権が尊重され, 温かい人間関係に包まれたホームルームづくり, 学校全体の雰囲気づくりに務める。</p> <p>II) 主体的に行動できる生徒を育てるHR活動を実践する, また, 人権教育を教育活動の重要な柱とするために, 指導内容や教育方法の研究・改善を行うための研修の充実を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・ヒューマンネットワーク部が中心となって, 板野支援学校とのオンライン交流会の計画・準備を5回以上行い, 12月には交流会を実施することができた。高校生どうしがアイデアを出し合い, 手作りで行った交流はお互いの学校に新しい形での交流の礎となるものを刻むことができた。</p> <p>II) ・1月に人権教育主事研修会として公開・研究授業を実施し, 全クラスの公開授業と3クラスの研究授業が行われた。個人端末を用いた授業や, 地域の特性を活かした教材の活用など, 概ね良好に評価された内容であった。</p>		

<p>6 環境教育・保健衛生対策の推進</p> <p>〔環境教育課〕 〔保健厚生課〕</p>	<p>I) 校舎内外の環境美化活動を推進し、道徳心や公共心の育成を図る。</p> <p>II) 学校における保健衛生環境を整えるとともに、生徒および教職員の健康管理を徹底する。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・自分のロッカーや机の周りの整理整頓ができていると思う生徒が85%以上。 ・ゴミが落ちてると進んで拾うという生徒が85%以上。 ・校外の清掃活動を通して、地域貢献をした生徒100%。</p> <p>II) ・新型コロナウイルスの感染防止対策として毎朝の健康観察票の提出を100%とする。 ・クラスター防止の観点から、教室や集会等での「3密」の回避をはかる。 ・手洗いと手指消毒、教室の換気など衛生指導を徹底する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・教職員による「授業改善レポート」から、ロッカーや机の周りの教室環境が格段に良くなったと評価するコメントが多く見られる。 ・「生徒意識調査」によると、ゴミをゴミ箱に適切に捨てるという意識を持つ生徒が91.7%に向上した。(昨年度86.3%)。 ・学校行事の重なりで、今年度は校外清掃活動を実施できなかったが、文化祭・体育祭、学期末の大掃除では、環境委員が分別用ゴミ袋の作成、サーキュレーター・ゴミ箱・清掃用具入れの清掃を行うなど、校内の美化活動を充実させた。</p> <p>II) ・毎朝のSHRでの健康観察票の配布・記入・回収が定着し、回収率も全体でほぼ100%を達成することができた。 ・今年度も年次集会を除き、各式典や講演をオンラインで行った。(一部Zoomと併用実施) ・保護者アンケートにおいて、学校の感染症対策については80%以上の人が評価していた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>今年度は校外の清掃活動が実施できなかったが、校内の環境美化推進に貢献できた。 学校生活においては、どうしても過密状態は避けられないが、検温、マスクの着用等習慣化したものも多く、生徒・保護者も協力的である。またZoomを用いた集会等も、昨年から取り組みにより混乱なく実施することができた。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、学校行事や課外活動等も実施できるようにウィズコロナの観点から対策を講じていきたい。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響にも関わらず、前年度の反省と成果を踏まえ、環境美化活動に積極的に取り組んでいる。 コロナ禍における感染対策も3年目となり、保健衛生業務も一定の成果を収めている。次年度は5類相当への移行によるマスク着用等の感染対策の基準も変わり、様々な課題への対策が必要である。</p>
<p>7 読書活動の推進</p> <p>〔図書課〕</p>	<p>I) 教科における学習活動と連携した読書活動の推進を図る。</p> <p>II) 読書習慣を定着させ、生涯にわたって豊かな人生を送るための資質を形成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・教育活動の一環として図書館を活用するよう、1年次を対象としたオリエンテーションを年に1回以上実施する。 ・読書感想文の課題本を決める活動を、1・2年次を対象として年に1回以上実施する。</p> <p>II) ・ビブリオバトルやHR読書会を、年に1回以上実施する。 ・図書の貸出冊数の目標を、年間2000冊以上とする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・国語科で1年次対象のオリエンテーションを4月に行った。 ・教科授業やHRを図書館で行い、読書感想文の課題本を選んだり、調べ学習をしたりする機会を作ることによって、図書館活用を促進したが、12月末時点で授業時の図書館利用は49回であり、昨年度同時期と比較すると、約52%に減少した。</p> <p>II) ・7月にビブリオバトルを実施し、優勝者は県大会に出場した。HR読書会は、図書課の提示した実践例を参考にして、9月に実施した。実践結果を報告し共有することができた。 ・図書館の貸出冊数は、12月末時点で1478冊であり、昨年度同時期と比較すると、約73%に減少した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>スマートフォン等の利便性が高まり、紙媒体の本はあまり読まれなくなってきている中、授業で図書館を利用したり、図書委員会活動を促進させたりすることで、読書の有効性を幅広く知らせることができた。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>SNSの普及によって読書量が低下し、地域や本校の図書館で貸出冊数は減少している。またインターネットの情報に頼り、書籍による「調べ学習」も減少している。利便性が優先され、読書の時間をなかなか取れないことが課題である。今後はさらに図書委員会活動を促進させたり、啓発活動を行ったりして、本校生徒の読書活動を深めていきたい。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>「活字離れ」がさらに進んでいる。地域の図書館でもその貸出冊数は減少している。スマホに頼り紙の本による「調べ学習」も減少しているようである。その中、ビブリオバトル等粘り強く指導していることは評価できる。</p>
<p>活動計画</p> <p>I) ・環境委員を中心にクラスに呼びかけ、全員で取り組むようにする。 ・1年次生の校外活動の1つとして、清掃ボランティア活動を実施する。</p> <p>II) ・家庭での体温測定と、朝のSHRでの健康観察票への記入・回収を習慣化する。 ・集会等は、オンライン会議システムを利用し、生徒が1か所で密にならないように工夫する。 ・教室・校舎出入口・トイレ等に手指消毒液を設置するとともに、清掃時および放課後を利用して教室や共用施設の消毒を行う。常時教室の窓およびドアは開放し、換気を徹底する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・環境委員を中心に呼びかけて全員で清掃活動に取り組むことができた。</p> <p>II) ・家庭での毎日の検温とマスクの着用等が習慣化し、健康観察票の記入・回収もスムーズに行うことができた。 ・教室、トイレ、校舎出入口に消毒液を設置し、毎日の清掃時と放課後の消毒作業を徹底した。昼食時の黙食を呼びかけ、教員が定期的に見回り指導を行った。また教室にサーキュレーターを設置し、教室の窓を対角線上に開けるなど、教室の常時換気を徹底した。</p>				
<p>活動計画</p> <p>I) ・教育活動の一環として図書館を活用するよう、図書委員による新刊紹介や、放送部と協力した読み聞かせ会等を実施して、生徒に働きかける。</p> <p>II) ・図書委員会を指導し、毎月1回発行する「図書館便り」の内容の一層の充実を図る。各月毎のHR貸出数を明記する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・職員・生徒の活動やアンケートに沿って図書を購入し、「図書館便り」や図書委員による館内展示で紹介した。新聞感想文作成のために、図書館の新聞が活用された。放送部との活動は、デイジー図書の制作(音訳ボランティア)を視聴者障がい者支援センターでの3回を含む全6回実施した。</p> <p>II) ・図書委員会で、ビブリオバトル・HR読書会等の図書行事の中心的存在として活動するよう指導した。夏休みに、県立図書館で図書委員の推薦電子書籍紹介が展示された。12月に図書委員による推薦本やPOPを展示した。「図書館便り」を毎月1回発行し、新刊を紹介したり、図書館活用を呼びかけたりした。各月毎ではなく、年度末にHR貸出冊数報告を実施した。</p>				

<p>8 開かれ信頼される学校づくりの推進</p> <p>〔企画推進課〕 〔総務課〕 〔進学課〕</p>	<p>I) 地域人材などの地域の教育力を活用し、地域と一体となって生徒を育成する。</p> <p>II) P T A ・同窓会との連携を図り、ホームページ等の情報発信や教育活動の公開を積極的に推進する。</p> <p>III) 大学院生・学部生との関わり等を通して、鳴門教育大学との連携を進める。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・地域の人々や鳴門市役所、鳴門教育大学と連携し、1・2年次を対象とした講座等を年に3回以上、また学校運営協議会を年3回実施する。</p> <p>II) ・P T A 総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催での実施とし、保護者からの返信(書面決議書)を80%以上とする。</p> <p>III) ・鳴門教育大学院生によるT T 授業や、放課後の「M i r a i サポート」(個別補習)を週2回実施し、学習支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門教育大学院生のフィールドワークを年間2回(1回15日以上)受け入れ、進学や教職を目指す生徒の意識づけを図る。 ・鳴門教育大学の施設・設備の利用や院生・学部生との相互交流等により、各種部活動の競技力向上を目指すとともに、生徒の部活動への意識高揚を図る。 	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・地域の方々、鳴門市役所、徳島市役所、鳴門教育大学や徳島大学などと連携し、1・2年次を対象とした講演等を10回以上実施した。また、総合的な探究の時間において鳴門教育大学訪問を実施し、施設や授業の見学、学生や教授の方々と交流を図った。学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を年3回(6月・11月・2月)実施した。</p> <p>II) ・P T A 総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催での実施とし、保護者からの返信(書面決議書)を83.0%回収することができた。</p> <p>III) ・鳴門教育大学院生による学習支援教室(名称:鳴教大院生 presents「Miraiサポート」)を英語・数学・国語の3教科で週2回放課後に実施した。(毎週各教科1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門教育大学大学院学校教育研究科専門職学位課程高度学校教育実践専攻の実習生を受け入れた(24名)。 ・鳴門教育大学院生から、HR活動や授業、放課後などの時間に進路に関する体験談を話してもらい、質問に答えていただいた。 ・ラグビー部、硬式テニス部、ハンドボール部(女子)において、鳴門教育大学の施設を利用させていただき、合同練習等を行った。 	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>ホームページをこまめに更新し、鳴門高校の広報に努めた。</p> <p>地域の方々、鳴門市役所、徳島市役所、鳴門教育大学や徳島大学などのご協力のもと、講演に加え、施設見学を通して地域との連携や交流を深めることができた。学校運営協議会では、毎回テーマを設定し熟議を重ね、各委員から本校生徒へのメッセージをいただいた。また、学校運営協議会で授業参観の時間を設け、委員の方々からの感想や助言を学校運営に役立てることができた。</p> <p>今年度実施した鳴教大院生 presents「Miraiサポート」、鳴門教育大学教員(原教授)の講義(国語)、鳴門教育大学の施設・設備の有効利用等は、継続していきたい。</p> <p>これらに加え、他教科の講座や実技を伴う授業(音楽)やボランティア学特講等の授業、教員志望の鳴高生の鳴教大授業受講、鳴高リハーサルテストを鳴教大で受験するなど、新しい取り組みを考えている。鳴門教育大学の施設・設備の利用や合同練習も、より多くの部活動で実施したい。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受け、PTA 総会や家庭教育研修会等も中止の措置を取ったが、今後アフターコロナにおける各種行事に如何にして参加者を増やしていくかが課題である。</p> <p>学校運営協議会と学校との連携について、教職員との連携内容を発展させる必要がある。また、学校としてコミュニティ・スクールの活用について幅広い視点から考え、地域社会と学校との連携を通して、継続的な協議・協働を進めることが必要である。</p> <p>鳴門教育大学との連携も4年目となり、より深い連携が実現した。今年度も大学関係者の生徒への講義や鳴門教育大学の施設・設備の利用など、多岐にわたったが、鳴門教育大学院生の受け入れが中心であり、鳴門高校側からの要望事項の実現は少なかった。</p> <p>高大連携推進委員会を開催し、充実した意見交換をさらに行い、さらなる連携強化に向けての具体的施策を協議していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>I) ・1年次を対象に地域のボランティアガイドによるフィールドワークを実施、1・2年次を対象に鳴門市役所や鳴門教育大による出前講座や講演を実施する。また、学校運営協議会を通して生徒の育成や学校の活性化に向けて協議する。</p> <p>II) ・P T A 総会の書面開催は、生徒を通じて書類を家庭に持ち帰らせ、書面決議書を回収する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門会(年に1回)・東京鳴門会(2年に1回)を実施する。 <p>III) ・鳴門教育大学院生によるT T 授業や、放課後週1回の個別補習「M i r a i サポート」を3教科(英語・数学・国語)で実施し、学習支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門教育大学院生の担当ホームルームで進路に関する体験談の時間を設ける。 ・テニス部、ラグビー部、ハンドボール部等において、鳴門教育大学の施設を利用し、合同練習を行う。 	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・なると観光ボランティアガイド会の案内でフィールドワーク「撫養街道を歩く」を実施、1・2年次を対象に鳴門市役所の出前講座や徳島市役所・鳴門教育大学・徳島大学による講演を実施した。また、総合的な探究の時間による鳴門教育大学訪問の中で、施設見学、講義の見学・参加を体験し、学生・教員・職員の方々に質問する機会を得ることができ交流を深めることができた。学校運営協議会では学校の活性化に向けて協議を行うとともに、授業参観をとおして生徒の様子を見ていただいた。</p> <p>II) ・鳴門会は、感染防止対策を行い、視聴覚室で開催した。東京鳴門会は中止となった。</p> <p>III) ・鳴教大院生による学習支援教室を週2回放課後に実施した。</p> <p>1・2年次生希望者:5月・10月・11月</p> <p>—英語、数学、国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴門教育大学院生から、HR活動や授業、放課後などの時間に進路に関する体験談を話してもらい、生徒からの質問に答えてもらった。 ・ラグビー部、硬式テニス部、ハンドボール部(女子)において、鳴門教育大学の施設を利用させていただき、合同練習等を行った。 		<p>学校関係者の意見</p> <p>今後とも、ホームページを含めた様々な方法で保護者や本人も含めた、地域社会への情報発信に精力的に取り組んでほしい。</p> <p>総合的な探究の時間など、よく地域と連携できている。総合評価はAが相当である。また地域・企業・大学等が連携・協働する学校運営協議会の取組は、本校のスクール・ミッションの実現に向けた生徒の主体的な活動に大きく貢献している。</p> <p>鳴門教育大学との連携を深める中で、教職を目指す生徒の支援を進め、鳴門教育大学に進学できる体制づくりが重要である。</p>

<p>9 消費者教育・主権者教育・防災教育の推進</p> <p>〔各担当〕</p>	<p>I) 身近な消費生活やエシカル消費について学ぶ機会を充実させ、自立した消費者の育成に努める。</p> <p>II) 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力を育成する。</p> <p>III) 地域と連携した安全・防災教育の推進に努め、災害時における実践力の育成を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ・消費者問題について理解が深まった生徒の割合80%以上。</p> <p>・エシカル消費について理解できたと思う生徒の割合80%以上。</p> <p>II) ・政治や経済に関心を持った生徒80%以上。</p> <p>・主権者として積極的に社会と関わりたいと思う生徒80%以上。</p> <p>III) ・地域の一員としての防災意識の高揚を図る。</p> <p>・生徒の防災士資格試験受験者の合格率100%。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ・消費者問題について理解が深まった生徒の割合81%。</p> <p>・エシカル消費について理解が深まった生徒の割合82%。</p> <p>・家庭基礎等の学習の中で消費生活やエシカル消費について学び、主体的に生活を営む姿勢を身につけることができた。</p> <p>II) ・授業で取り上げる題材を工夫することにより、政治や経済に関心を持った生徒は86%だった。</p> <p>・鳴門市の将来を見据えた提案を構想する授業を実施した。</p> <p>主権者として積極的に社会と関わりたいと思う生徒は83%だった。</p> <p>III) ・3回の防災避難訓練を通して防災意識を高揚させた。</p> <p>・地元の自主防災組織及び鳴門市と避難所設営についての情報交換会を行い災害時における実践力を向上させた。</p> <p>・備蓄している防災グッズを展示する防災展を文化祭で開催した。</p> <p>・体育祭、修学旅行など校外での学校行事の際には現地のハザードマップを周知し、防災教育を推進した。</p> <p>・生徒の防災士試験の合格率は100%だった。(2人合格)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>消費者教育に関しては、外部機関に加え、公民科と家庭科との連携を図ることにより、多様な方面から学習を進めることができた。</p> <p>エシカル消費について学ぶことで、倫理的主体としての視点から、自身の消費生活に対する関心と実践力を高めることができた。</p> <p>例年の取り組みに加えて、避難所設営についての情報交換会、防災展など、例年にはない取り組みを行うことができたことが評価され令和4年度「徳島県まなぼうさい賞奨励賞」の表彰を受けた。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>主権者意識の高揚は継続的でなければならない。今年度の取組により構築できた関係諸機関との協力関係を継続的なものにできるよう、取組を推進していく必要がある。</p> <p>今年度、情報交換会を通して関係を深めることができた自主防災組織や鳴門市との連携を進め、防災力を向上させることが課題である。避難訓練などで連携し、災害時における実践力を向上させたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>I) ・成年年齢引き下げによる、消費者トラブルを防ぐため消費者教育講演会を実施する。</p> <p>・家庭科の授業を通して、具体的な消費者トラブル事例からトラブル防止に役立つ知識を学び、知識を活用してトラブルを解決することができるよう学習する。</p> <p>・家庭クラブの活動を通してエシカル消費について学び、身近なことから実践する力を養う。</p> <p>II) ・地域との関わりのなかで、時事問題や現代社会における諸課題について、他者と協働して考え、得られた成果や課題を発表したり討論する授業を実践する。</p> <p>III) ・防災避難訓練を鳴門市と連携し実施する。</p> <p>・防災士資格取得講座を年3回実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>I) ・1年次の生徒を対象に、外部講師による成年年齢引き上げに関する消費者教育に関する講演会を実施した。</p> <p>・家庭基礎の学習において、野村金融教育プログラムを活用し、ライフプランニングと資産形成について学び、その中で消費者トラブルについても触れ、学習内容の定着を図った。</p> <p>・鳴門市生涯学習人権課の出前授業「食品ロス削減について」、有限会社ハイブラ代表取締役松崎氏より「鳴門の海を守る～海洋プラスチックゴミについて」と題してエシカル講習会を2回実施した。身近なことからエシカル消費について実践する力を養うことができた。</p> <p>II) ・主権者教育に関わる単元構想及び授業改善に取り組み、地域の課題を見出し、解決に向けた方策について、協働的に探究する授業を実践した。学習の成果物として鳴門市のまちづくりに関する意見書を鳴門市長、鳴門市議会議長に提出した。</p> <p>III) ・鳴門市と連携し地震津波の防災避難訓練を実施した。</p> <p>・防災士資格取得講座は1回実施した。</p>	<p>主権者教育に関しては、専門家や関係諸機関との連携を図りながら、鳴門市の課題解決に向けた課題解決型学習に取り組むことにより、社会参画意欲を高めることができた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>コロナ禍で、たくさんの行事がキャンセルになる中で、生徒の「防災士」試験の合格率が100%であったことは、先生方の指導ならびに生徒の頑張りを評価したい。</p> <p>「防災士」を取得した生徒が単に取得したことに終わらず、地域や避難場所での活動ができるよう指導を継続してほしい。</p> <p>SDGs が叫ばれる中で、エシカル消費についてのさらなる普及に向けての取組が必要であるとともに、情報発信にも留意していきたい。</p>

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった